

# あすなる夢建築 大阪府公共建築設計コンクール

## 「誰もが集えるコミュニティの場」

～大阪府宮瓜破東1丁目住宅集会所～

### 主 催

大 阪 府                      (社)大阪府建築士会                      大阪府住宅供給公社

### 後 援

大阪府教育委員会                      (社)大阪府専修学校各種学校連合会

### 協 賛

(社)日本建築協会	(社)大阪府建築士事務所協会
(社)日本建築家協会近畿支部	(財)大阪建築防災センター
(財)日本建築総合試験所	(財)日本建築センター大阪事務所
(社)公共建築協会	(社)大阪建築設備設計事務所協会
(社)日本建築積算協会関西支部	(財)建築技術教育普及センター近畿支部

# コンクール概要

審査講評

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することで、将来の建築技術者の育成を図り、また、永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりの推進を目的として府内の高校生や専修学校生等からアイデアを公募し、最優秀作品賞に選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

## 【テーマ】

「誰もが集えるコミュニティの場」  
～大阪府営瓜破東1丁目住宅集会所～

## 【主な設計条件】

所在地：大阪市平野区瓜破東1丁目  
計画地面積：約990㎡（集会所敷地）  
延べ面積：140㎡～160㎡  
構造・規模：鉄筋コンクリート造 平屋建て（地下なし）

## 【作品受付期間】

平成23年1月11日（火）～ 1月14日（金）

## 【応募状況】

応募校数：12校  
応募作品数：254点（うち 第1部59点、第2部195点）  
応募者数：260人（うち 第1部59人、第2部201人）

## 【応募資格】

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校、高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人または3名以下のグループ。

## 【募集区分】

第1部：工業高等学校（工科高等学校）等に在籍する生徒  
第2部：短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

## 【入賞作品と賞】

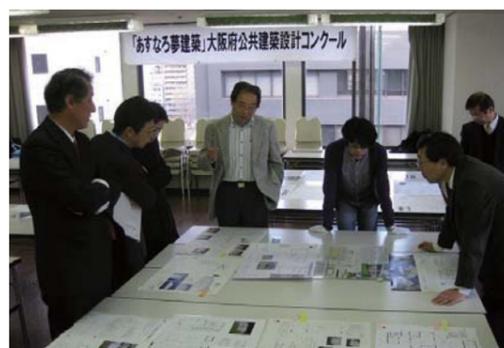
最優秀作品賞：1点 優秀作品賞：3点 佳作：3点 奨励賞：2点  
入賞作品は、上記のとおり合計9点を選出し、それぞれの入賞者に賞状を授与。ただし、第1部と第2部からそれぞれ2点以上の入賞作品を選出するものとした。

## 【表彰式及びプレゼンテーション】

日時：平成23年3月30日（水）午後1時～  
場所：咲洲庁舎 23階 中会議室

## 【入賞作品の展示】

期間/場所：平成23年4月4日（月）～ 6月3日（金）  
池田・府市合同庁舎（展示ロビー）ほか6箇所において大阪都市景観建築賞（大阪まちなみ賞）等と合同で実施。



## 審査委員

（審査委員長）

大坪 明

（武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授）

（審査委員）

加我 宏之

（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授）

末包 伸吾

（関西大学環境都市工学部建築学科教授）

井上 久実

（井上久実設計室代表）

中川 富雄

（大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長）

南 正晴

（大阪府住宅まちづくり部公共建築室長）

## 総評

審査委員長 大坪 明

今回のあすなろ建築賞には、例年に無く多数の応募があった。それは本賞が学生の皆さんの間に浸透してきた結果でもあろう。同時に、応募者の「自作を実現したい」という思いも伝わってくる。このような状況に関しては、審査をする側としても嬉しい限りである。

今回の応募要領には、維持管理の容易さや使い勝手の良さを大きな評価ポイントとするということが明確に提示された。それは一方では、学生達の自由な発想を萎縮させる危惧もはらんだものである。デザインをすることは、決して奇をてらうことではないが、そこに学生らしい若さや冒険心も欲しい。デザインには、今まで無かった新しい形態や、あるいは新しい使い勝手等も含めて新たな価値観を提示する役割も持っていることは確かである。

しかし、「団地の集会所」という公的な施設の実施コンペであり、アイデアコンペや設計課題ではない。その上、実現されたものを利用するのも維持管理をするのも団地住民に任せられるという条件がある。つまりは、プロの施設管理者が居るわけでもなく、また素人が利用するということを十分に読み込んだ設計が求められているということでもある。上記の様なことをしっかり踏まえた上に、建築形態にまとめ、しかもそれは当該建築単体の内部の使い勝手を考えるだけではなく、周囲とどのように呼応するかということも併せて考えられている必要がある。即ち、要求条件や周辺条件と自らの考えを弁証法的に止揚し、新たな次元のものにすることが求められているのである。この様なことを確認しながら、夫々の作品を見ることにした。

ところで、今回応募された作品を総じて見ると、もちろん、受けてきた建築教育の期間の違いもあり、巧拙はないわけではないが、どの作品もそれぞれに上記の様なことを真剣に考えてくれていることが読み取れる。

### 岳本大樹作品（最優秀作品賞）

各室に必要な階高に合わせたプランニングが、造形的な明快さとともに整理されている点や、高さの違いを利用したハイサイドライトの活用、テラス部上部の庇の張り出しによる半屋外空間の形成等の点に、配慮が感じられて好ましい。惜しむらくは、配置上の角度が不明快な点であり、団地内通路に沿った配置にして、テラス部への通路からのアプローチが容易に出来る様な配慮が欲しかった。

### 上門達彦作品（優秀作品賞）

機能配置が明快なプランである。デザインの的にも列柱を持った水平庇が全体を引き締めている。通路側の庇下部が更に広く半屋外空間が十分に設けられる様な配慮が欲しかった。また、通路と角度を持った配置は、前面空間の使い方の提案も併せて提示されていればなお良かった。そうでないなら、通路に平行な方が配置は明快であろう。

### 久保田伸次作品（優秀作品賞）

高校生の作品としては、プランニングが明快で、集会室の外部への開放の仕方も適切である。出来得れば外部空間との呼応関係は、庭部分に対するだけでなく、人通りが期待できる通路側との関係も構築する工夫が欲しかった。また、庇の設置が無い点などは、改善の余地がある。

### 谷口弘一作品（優秀作品賞）

動線が短く機能的にも明快に分離されている。造形的にも大空間とそれ以外が対比的に扱われた処理は好感が持てる。配置計画は、敷地北側に建物を寄せ、南を開放的に扱っているが、それは南庭部分をどの様に整備するかが問われることにもなる。一方、開口部上部における庇の設置が無い点や、団地内通路と施設内との呼応関係が不十分な点など、課題も見受けられる。

### 清田哲平作品（佳作）

玄関を挟んで明快に機能分離している点は判り易いし、集会室が半屋外を介して団地内通路と接する点も評価できる。惜しむらくは、キッチンや食事の場がそれに接して半屋外も含めた使い方が想定されていれば、なお良かった。

### 難波佑馬作品（佳作）

玄関を挟んで明快に機能分離している点は判り易く、使い勝手も良い様に見受けられる。しかし、団地内通路に面して水回りを含めて壁が多く、施設内と団地内通路との間での呼応関係が作りにくい点が課題である。デザイン面でも一層の工夫がほしい。

### 宮崎翔太作品（佳作）

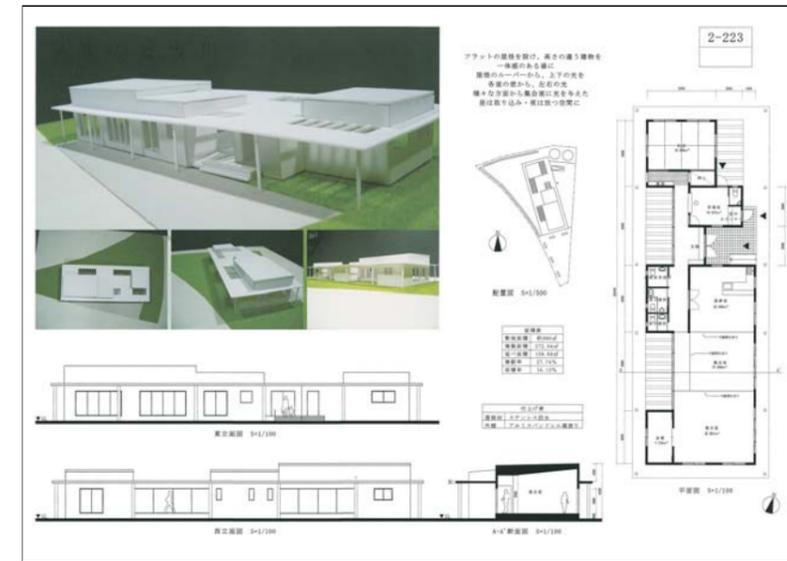
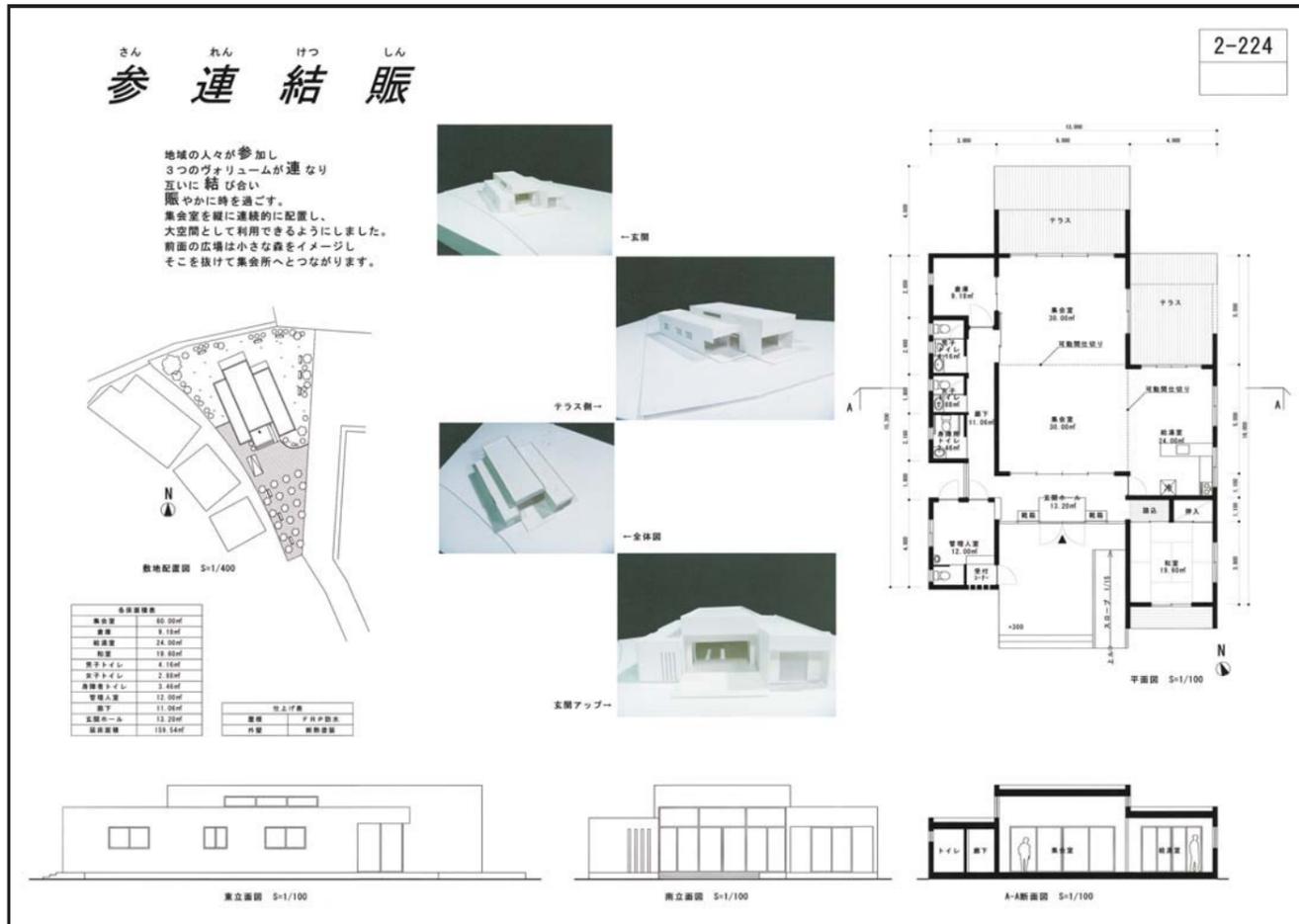
団地内通路に平行に配置され、外部に十分解放された集会室は、付属する半屋外空間にもにぎわいが漏れ出してきそうで、十分に機能する様な期待感がある。一方、動線部分が半屋外である点は、高齢者の利用が多い点を考えると、「？」でもある。

### 小西 明作品（奨励賞）

応募案の中では、造形的意図を明確にしており、比較的チャレンジ精神の旺盛な作品と言える。しかし、現実には部屋の形状や動線、あるいは各部の収まり等を考えると、実施には向かない点が多く見受けられた。今後に期待したい作品である。

### 庄司竜太作品（奨励賞）

周辺の状況に鑑み、コートハウスの外部空間であっても閉じられた中に一つの宇宙を創りたいという意図は理解できる。しかし、どの程度まで閉じるかは吟味される必要がある。団地内通路等と本施設との間での呼応関係が形成されることも望まれる。また、高齢者の多い状況から、内部動線がオープンエアな点も課題である。



上門 達彦  
大阪建設専門学校 2年

フラットの屋根を設け、高さの違う建物を  
一体感のある場に  
屋根のルーバーから、上下の光を  
各室の窓から、左右の光  
様々な方面から集会室に光を与えた  
昼は取り込み・夜は放つ空間に

久保田 伸次  
大阪市立都島工業高等学校 3年

link of people ~繰り返しのなかで~

隣の家に誰がいるのかわからない今、人と人とのつながりが大切になってくる。  
限られた空間を使う利用者にとって、通路（ホール）でも人々のつながりを持たせるべきだと考えた。そのためホールを大きく取り、窓をデッキに沿って設けることで狭さを感じさせないようにしました。  
また、ホール、デッキなどから多様な動線を作り出し飽きのこない空間をつくりました。  
一つの空間を共有することで利用者たちのふれあう機会が増えてきます。  
開放感のある空間によってのびのびと安心して利用できる空間をつくりました。



岳本 大樹 大阪建設専門学校 2年

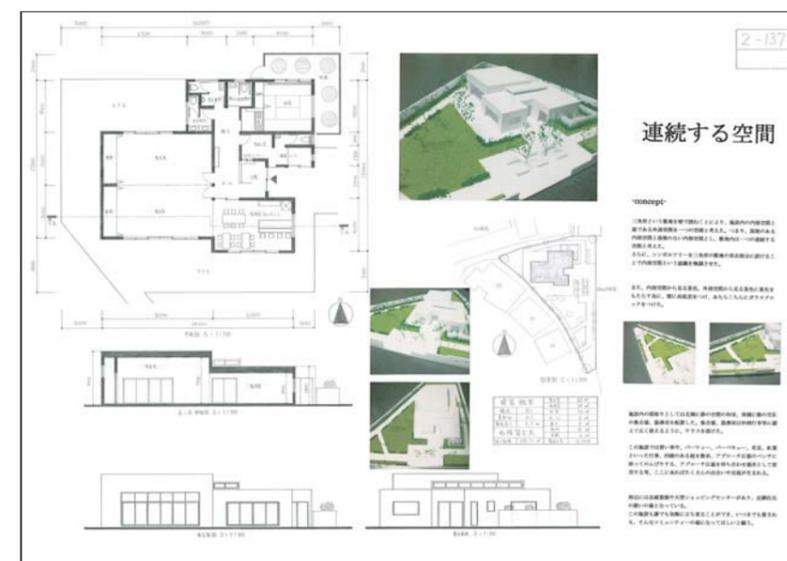
参連結販

地域の人々が参加し  
3つのヴォリュームが連なり  
互いに結び合い  
賑やかに時を過ごす。  
集会室を縦に連続的に配置し、  
大空間として利用できるようにしました。  
前面の広場は小さな森をイメージし  
そこを抜けて集会所へとつながります。

谷口 弘一  
大阪工業技術専門学校 1年

連続する空間

三角形という敷地を壁で囲むことにより、施設内の内部空間と庭である外部空間を一つの空間と考えた。つまり、屋根のある内部空間と屋根のない内部空間とし、敷地内は一つの連続する空間と考えた。  
さらに、シンボルツリーを三角形の敷地の頂点部分に設けることで内部空間という認識を強調させた。  
施設内の間取りとしては北側に静の空間の和室、南側に動の空間の集会場、湯沸室を配置した。集会場、湯沸室は恒例行事等に備えて広く使えるように、テラスを設けた。  
この施設では習い事や、パーティー、バーベキュー、花見、紅葉といった行事、回廊のある庭を散歩、アプローチ広場のベンチに座ってのんびりする、アプローチ広場を待ち合わせ場所として使用する等、ここに来ればたくさんの出会いや交流が生まれる。（一部抜粋）



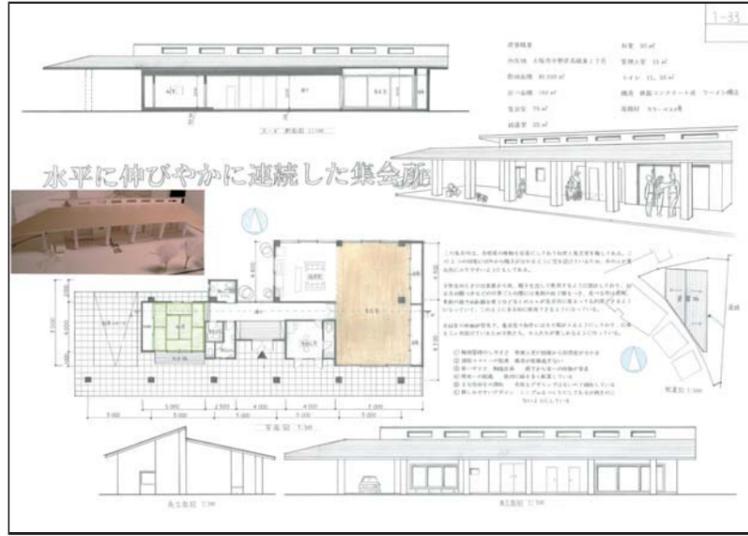
清田 哲平

大阪市立都島工業高等学校 2年

水平に伸びやかに連続した集会所

この集会所は、各部屋の移動を容易にしてあり和室と集会室を離してある。この2つの部屋には外から様子が分かるように窓を設けているため、外の人々が集会所に入りやすいようにもしている。

子供会ときには倉庫から机、椅子を出して使用するよう設計しており、お正月の餅つきなどの行事ごとの際には東側の庭で餅をつき、食べる所は西側、東側の庭やぬれ縁を使うなど多くの人々が集会所に集まっても利用できるようになっていて、このように多目的に使用できるようになっている。各部屋の移動が容易で、集会室や和室には光や風が入るようにしており、広場を3ヶ所設けているため子供たち、大人たちが楽しめるようになっている。



小西 明

中央工学校OSAKA 1年

RING

今回のプランでは規制された建築のあり方からより自由で多様性をもつ空間を目指した。この建築は一本の道(帯)からできており、三次元に展開することにより街の延長上の道として空間を存在させた。

床と天井のすれにより空間に揺らぎを作り、壁によってつなぎ合わせた場と空間が交わることによって揺らぎが生まれ、連続した空間を作りだす。

揺らぎによってできた空間は、切り離された空間ではなく、ゆっくりと流れる空間となり人々にゆとりと豊かさを与える。また、帯は構造としても機能し織り込むことにより荷重を分配する。そのため内部空間に広々とした空間を作り出すことが可能になった。帯により内包された各用途空間はコンパクトかつ多様な使用が可能となったプランが可能となった。揺らぎによってできた関係性はその空間に調和をもたらし延々と繋がったサイクルを作りだす。

このネットワークのように繋がった空間は集会所、自体が一つの都市のような機能を持ち始めることを期待する。(一部抜粋)



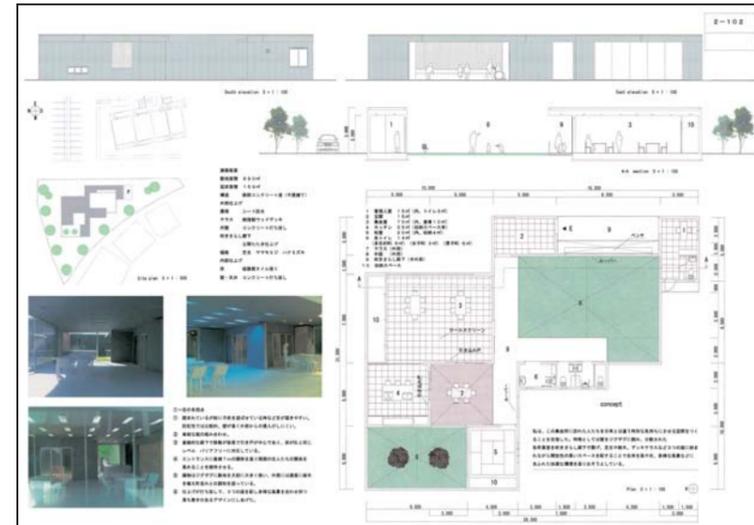
難波 佑馬

大阪建設専門学校 2年

Almighty

集会所は様々な人を出迎え、様々な環境に適応しなければならない。

その要望に応えるべく、「バランス」をテーマに建物全体のボリュームに変化をあたえ、個性を象徴しつつ、平面ではまとまりのある配置になるように計画した。



庄司 竜太

日本理工情報専門学校 2年

私は、この集会所を訪れた人たちを日常とは違う特別な気持ちにさせる空間をつくることを目指した。特徴としては壁をジグザグに囲み、分散された各所を吹きさらし廊下で繋げ、芝生や樹木、デッキテラスなど3つの庭に挟まれながら開放性の高いスペースを配することで全体を風や光、多様な風景などにあふれた快適な環境を造り出そうとしている。

宮崎 翔太

中央工学校OSAKA 4年

「笑顔が見通せるふれあい広場」  
～いつもつながる笑い声～

今回の集会所の計画では、誰にでも使いやすくオープンに、中の様子がわかりやすいように計画しました。様子がわかりやすくなっていることで、安心感があり、気軽に立ち寄れると思います。デッキで囲まれているため、どこからでも出入りが可能で、外部とのつながりも意識しています。和室の西側には裏庭があり、腰部までオープンになっている袖壁があります。腰部までオープンになっていることで、外からも様子がわかるようになっており、また少し隔離されていることによって、ちょっとした隠れ空間になっています。さらに、メインスペースと和室の高さを変えることで、動きを与えて、リズム感ができるようにしました。

この集会所によって、子どもと高齢者がふれあい、小さなつながりがどんどん広がっていくことを願っています。(一部抜粋)



■応募作品校一覧■

【第1部】

- 大阪市立都島工業高等学校
- 大阪府立今宮工科高等学校
- 大阪府立西野田工科高等学校
- 大阪府立布施工科高等学校

【第2部】

- 大阪市立デザイン教育研究所
- 大阪建設専門学校
- 大阪工業技術専門学校
- 修成建設専門学校
- 大阪府立工業高等専門学校
- 大阪府立夕陽丘高等職業技術専門校
- 中央工学校 OSAKA
- 日本理工情報専門学校

